

科目ナンバリング		G-LAS10 80036 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ文芸思想論 German Literature and Thought				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 須藤 秀平			
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	月4		配当学年	大学院生	対象学生	文系向		
(人間・環境学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)											
[授業の概要・目的]											
フランス革命前後の時期にあたる1784-1790年に、ドイツの国法学者フリードリヒ・カール・フォン・モーザーが編纂したパトリオティズム（愛国主義）に関する論集をドイツ語で読み、当時のドイツ人が「ドイツ」「国民」「愛国」といった観念についてどのような考えを持っていたのかを学びます。 愛国主義やナショナリズムは現代でも重要なテーマですが、「国民」という概念が現在のような意味で用いられるようになったのは、18世紀以降、特にフランス革命以降のことです。このとき、近代的な国家制度を確立したフランスとは異なり、ドイツはまだ統一国家を持っていませんでした。そのような時代に、ドイツの作家はどのような問題に直面し、何を求め、何を批判したのか。実際に18世紀に書かれた歴史的なテキストを読むことで、ドイツの歴史的な事情について学ぶとともに、当時の人々の思考法を理解することを目指します。 授業ではおもにドイツ語文献を精読します。担当者が訳文を作成し、それを共有して検討する形式にする予定です。進度は参加者の習熟度に応じて調整します。また、ご自身の研究内容についてレジュメを作って発表してもらいます。本演習には様々な分野の院生が参加してくれるはずですので、質疑応答を通じて専門外の人とも意見を交換することができます。ドイツの歴史社会や思想史に関心がある人、ドイツ語テキストを読むことに慣れたい人を広く歓迎します。											
[到達目標]											
・ドイツ語で書かれたテキストを原典で読み、その内容を理解する。（技能） ・近代ドイツ語圏が置かれた歴史的状況についての知識を得る。（知識） ・現代日本とは別の文脈に生きた人々の思考法を理解することで、自分自身が関心を持つ問題について多角的に考える力を養う。（態度、志向性）											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-4回 テキスト講読 第5回 これまでに得た知識をふまえて議論する 第6-8回 テキスト講読 第9-14回 研究発表会 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
ドイツ語が読めること。とはいえ解説はゆっくり丁寧におこなうので、初級文法の知識があり、自ら学ぶ姿勢があれば歓迎します。 本科目は半期授業ですが、いわゆる「ゼミ」のような形で運営しますので、後期科目「文芸表象論演習2」も合わせて受講することをおすすめします。もちろん、半期の受講も可能です。											
----- ドイツ文芸思想論(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

ドイツ文芸思想論(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回の発言や和訳等）70%、レポート30%として総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する
授業中にテキストを配布します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

ドイツ語のテキストを精読するため、授業前の準備が重要となる。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]